

新の国 企業探訪

株式会社 海幸水産

株式会社海幸水産は埼玉県内の小中学校向けに学校給食に使われる食材の卸し、食品加工を手掛けている。深井勇哉社長は、前社長で実父が5年前に逝去し、26歳という若さで4代目社長に就任した。就任後には、新型コロナウイルス感染症の影響で学校給食が一時期、停止する予想外の事態にも見舞われたが、持ち前の前向きな姿勢と営業力強化、そして同業他社の撤退に伴うシェア拡大などにより、4期連続で最高売上を更新している。

県内の85%をカバーする学校給食の老舗企業

株式会社海幸水産は、学校給食の献立に使う食品素材、原料を調達して学校に卸している。取扱う食材の種類は、肉、野菜、魚から調味料まで多岐にわたり、その数は数万種類に及び、日常的にも1,000種類を超える食材を扱っている。それぞれの食材は購入後、冷凍、冷蔵、常温など食材の状態に応じて、一旦、社内の倉庫に保管され、学校が使用する前日に品揃えして、当日の朝、各学校、給食センターに自社トラックで運搬する。

また自社工場では、1日2トンの食材を加工している。肉の味付け、魚のパン粉付けなど学校から依頼された状態に食材をアレンジ加工し、冷凍、冷蔵した状態で学校に納品している。加工食材は学校ご

とにレシピが異なり、“塩分を何パーセントにして欲しい”“下味をこうして欲しい”という要望にきめ細かく対応している。現在、加工食品で最も力を入れているのが“魚”で、味付けに強いこだわりを持っている。

同社の活動エリアは埼玉県内の小中学校のうち約85%の地域をカバーしている。前期の売上高は32億4,000円(2023年7月期)。うち85%が卸事業、残り15%が食品加工の売上で占められている。創業は1955年9月(1964年9月に会社設立)。創業者は深井社長の曾祖母で、曾祖母が築地で水産事業を営んでいたことが社名の由来になっている。曾祖母は1954年6月、学校給食法が制定され、全国の公立学校に完全給食がスタートしたタイミングを見て、現在の本社の土地で学校給食向け事業に参入した。

父が逝去し26歳で社長に就任する

深井社長は26歳で社長に就任した。前社長で実父が胃がんを患い、56歳で逝去したことに伴い母親から後を継ぐよう促された。今から5年前、2018年のことだ。深井社長は父が亡くなる2週間前、もう回復が難しいと初めて聞かされた。既に父は会話もできない状態で、後継者をどうするのかは専務である実母を中心に役員に任された。母は急遽



倉庫内の風景



創業時の本社

開いた臨時役員会で長男である深井氏を指名した。

深井社長は大学卒業後、父から数年間は自由にしていたと言われ、2年間、京都でアルバイトをしながら過ごし、その後の1年間はカナダで過ごした。3年が経過して、25歳で帰国し、海幸水産に入社した。それからわずか半年しか経たない中で突如、経営トップを託された。実質、社会人経験はなく、右も左も分からない状態で飛び込んだというのが実情であった。深井社長は「小学生の頃から、将来は会社を継ぐんだらうなど、ずっと覚悟して生きてきた」という。しかし、実際にそれが現実になった時、「特段躊躇することはなかったが、ただ、ちょっと早すぎるなどという気持ちは正直、ありました」と振り返る。

緊急事態の中、社長に就任したものの、自分以外は社員全員が年上であった。年下は一緒に会社を手伝っていた実妹しかいなかった。そうした環境下でも社員は皆、不平不満を言わずに、辞める人もほとんどいなかった。「私を信じてついてきてくれた。社員を大切にしていかなければいけないと実感した」と深井社長は話す。

チャレンジする企業風土を育てる

社長就任から5年が経過した。深井社長は、「今では自分が何をやるべきか、だいたい分かってきた。自分がやりたい方向性を示して、実現していけるようにはなった」と自信を覗かせる。その1つが“挑戦する企業風土”の醸成だ。学校給食事業は安定しているため、何か新しいことにチャレンジする慣習はなく、現状維持が大切という保守

的な考え方が社内にはあった。しかし、深井社長のモットーは“取りあえずやってみること”。「私は色々なことにチャレンジしたい人間なので、そういった姿勢を社内で見せてきた自負はあります。自分の行動を見て多少なりとも、チャレンジする企業風土はできてきた」と振り返る。一例として、最近、設備投資で新しい冷凍・冷蔵倉庫を購入したが、購入に際して懸念される課題を社員自らの判断で解決するようになった。

深井社長自身も積極的に同業者の会合に顔を出している。様々なメーカーと接触して、新しい取引先、仕入先を増やしてきた。これまで扱わなかったドレッシングやデザートなど新ジャンルの商品を学校に卸せるようになり、売上向上にもつながっている。また、前社長時代は、新規メーカーが同社に営業のアポイントメントを取ろうとしても断っていたが、深井社長は、取りあえず話を聞いてみようというスタンスで臨んでいる。「話を聞いてみて、取引につながることもある。そういった部分はチャレンジしています」と話す。

コロナ禍が直撃するも4期連続で増収

2020年春、日本国内では新型コロナウイルスが急速に感染拡大し始め、やがて政府による緊急事態宣言の発令により国全体で人流が止まった。学校現場でも感染予防対策が急務となり、その一環として、2020年3月から6月までの3ヶ月間、学校給食がストップした。そして同社の売上はゼロになった。「正直、これはマズイと思いました。ただ、給食がなくなることはないと思っていたので、その場



食材を積み荷する風景



積極的に会合に参加する深井社長

を乗り切れれば問題ない。いつ再開されるのか毎日ニュースを見ていました」(深井社長)。その期間、同社は交代勤務をしたり、仕事がなければ社員に自宅待機させたりした。社員に対しては給料もボーナスもしっかり払い続けた。その結果、退職者を1人も出さなかった。

コロナ禍の影響を受けた海幸水産は2019年度(2020年7月期)、大きく売上は落ち込んだが、そこから3期連続で増収、過去最高の売上を更新している。理由は2つある。1つは深井社長になって積極的に営業力に力を入れていることだ。営業人員を増やし、既存の取引先から注文を増やしていることに加えて、新規開拓先を深耕している。2点目の理由は同業他社が学校給食事業を撤退して、病院や介護、老健施設にシフトしたことだ。

同社が撤退企業のシェアを確保する残存者利益を享受している。一方では取引先に対する配慮も重視

している。現在、国内ではエネルギーや各種原材料のインフレが社会問題となり、その影響は食品の値上げにつながっている。学校給食もそのしわ寄せを受けていて、学校の栄養士は決められた予算の中で、献立を工夫している。海幸水産ではそうした実情に対して、1円でも安い原料を探したり、同じ食材でも仕入先によって価格が異なるため、比較検討して購入先を決定している。また創意工夫した取組みを学校単位で栄養士向けに毎月、提案活動を行っている。

クラウドファンディングで子ども食堂に寄贈

事業拡大の傍ら、深井社長は環境問題や地域貢献に高い関心を持ち、地道な取組みを行っている。2022年6月にはSDGs宣言を行い、地産地消の取組では、地元の子ども食堂への協力を表明している。2022年12月、その一環として、クラウドファンディングのプラットフォームを利用して、1,000円寄付するごとに鮭1匹を子ども食堂に寄付する「笑顔満開プロジェクト」を実施し、目標額を上回る実績を残している。

海幸水産ではコロナ禍の影響で発注していた食材が多数キャンセルとなり、食材を廃棄せざるを得ない状況に追い込まれた。その時に深井社長が知り合いの子ども食堂に対して何かできないか考え、クラウドファンディング事業者との協力により、捨てるはずだった商品子ども食堂で使ってもらうことになったのである。



さいたま市子ども食堂ネットワーク本部で開かれた贈呈式(2023年2月24日)
(左から深井社長、さいたま市子ども食堂ネットワーク本間代表、むさしの未来パートナーズ 草生社長)



食材の加工ライン

2024 年秋、加須市に食品加工の新工場を建設

海幸水産の強みは自社工場を持つことだ。食品卸の事業者で製造工程を持っている企業は少ないが、海幸水産は食品加工ができるため、学校ごとに要望を吸い上げて、それを形にすることができる。食品加工は創業以来継続しており、現在では魚のフライや味付けなどオリジナル商品が 5,000 種類以上にも及ぶ。

2024 年、同社はこの取組みを加速させ、同年秋、新たに加須市内に新工場を建設することを決めた。本社以外に食品加工工場を設置するのは同社として初めての試みで、広さ約 200 坪の面積に設備投資額 1 億円で食品加工ラインを設置する。加須市に新工場を建設する理由は、現在の本社工場が手狭となり、生産量が限られていたためだ。同社には県外の学校給食向け食品卸事業者から食品製造の依頼が多数寄せられており、新たなニーズに対応するために新工場建設を決めた。少子化の影響で今後、学校市場の縮小は避けられない。会社を成長させていく

上で、「既存の取引先に加えて、病院や介護福祉施設、保育園や高速道路のサービスエリアなど、販路を拡大していきたい」（深井社長）と話す。

さらなる事業拡大に向けて、同社は食品製造に関連した事業買収（M&A）案件を探している。学校給食をメインにする同社にとっては、「どのような食材も使うので、埼玉県内あるいは近隣自治体で食品製造を手掛ける中小の食品加工会社を買収したい。買収することによってレポートリーを増やしたい」と意欲を覗かせる。一連の方策を通じて、今後の売上目標として、“社長の年齢×1 億円”を目安にしている。深井社長は現在 31 歳、10 年後の 41 歳の時には年間売上高 41 億円を目指すという。

趣味のサッカーで気分転換を

父の逝去に伴い、急転直下、社長を引き受けることになった深井社長。自身は楽道家で細かいことは気にしない性格というが、社員 100 人を抱える経営者として重責を担っている。気分転換は仕事の合間に仲間と楽しむ月 1-2 回のサッカー。ポジションはキーパーだ。

子供時代、サッカー選手を夢見た時もあったが、大会で出会った選手が自身より上手いプレーをするのを見て、“この人には勝てない”と直感的に思い、夢は小 4 で諦めた。今は趣味として没頭している。経営者としてまだまだ先は長い、「社員がこの会社に働いていて、良かったと思って貰える会社になりたい。それがやっぱり一番」と強調する。若き経営者の将来が楽しみだ。

企業概要

株式会社海幸水産

<https://kaikosuisan.co.jp/>

■代表取締役社長：深井勇哉

創 業：1964 年 9 月

事業内容：学校、会社等の給食用冷凍食品
及び副食品の加工販売

本 社：さいたま市桜区田島 1-2-1

電話番号：048-862-1254

取 引 店：県庁前支店

